

議長定例記者会見 会見録

日時：平成31年4月11日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の発言事項

- 議長就任から1年を振り返って
- 副議長就任から1年を振り返って

2 質疑項目

- 県議会議員選挙の結果について
- 第三者機関の設置について
- 次期の役員改選について
- 引退について

1 冒頭の発言事項

- 議長就任から1年を振り返って

(議長)おはようございます。ただ今から、4月の議長定例記者会見を開催させていただきます。本日は、発表事項がございませんが、議長任期最後の記者会見となりますので、議長に就任してからの1年間を振り返りながら、少し感想を述べさせていただきたいと思っております。その前に記者の皆さま方には、1年間定例記者会見等を含めながら、情報発信にご協力ご尽力いただきましたことを、まずもって、感謝を申し上げる次第でございます。ありがとうございました。そして、私の議長就任時に、公約でお約束をさせていただいたことが大きく3点ございました。その3点が、1点目は、議員定数及び選挙区に関する第三者機関を設置して検討を深めたい。そして2点目が、議会経費のさらなる削減を進めていきたい。3点目が、29年度の議会改革の検討結果を踏まえた取組等々の議会改革を進めていきたいという3点でございました。まず、1点目の議員定数及び選挙区に関する第三者機関の設置の検討につきましては、ご案内のとおり、なかなかご理解をいただくことができませんでしたので次期議長に引継ぎをさせていただくこととなった次第であります。議会経費のさらなる削減につきましては、先月の本会議におきまして関係する条例改正案を全会一致で可決をしていただき、来月の議員報酬10%、政務活動費30%などの削減を実施することとなったところでございます。また、議会改革に関しましては、議会基本条例に大規模な災害その他の緊急事態への対応の条項を追加したことを踏まえて、大規模な災害等緊急事態への県議会の対応に関する検討会による検討を行っていただき、三重県議会指針の策定、さらには、災害対策会議の設置

など新たな組織づくりも含めながら成果につなげさせていただくことができたのではないかと考えております。さらに、平成27年に策定をいたしました議会活動計画最終年の取組といたしまして、議員任期4年間を通した議会活動の評価と次期改選後議会への提言を取りまとめていただいたところでもあります。4年間を通した評価としては、特に議会活動計画に基づく取組について十分に取組めたと評価できるものの、反省点・課題として、取組の評価基準の作成あるいは、委員会における委員間討議などに関する課題が明らかになってきたところでもございます。これらにつきましても改選後議会でも適切に対応していただけるように、次期議長に引き継いでいきたいと考えておるところであります。以上、この1年でやらなければならないと考えていたことにつきましては、一部積み残しもございますけど、議員各位をはじめとする関係者の皆さま方のご協力により、おおむね大過なく成果を出させていただいたのではないかと考えておるところでございます。最後に、三重県議会の議長として、この1年間、その役割を果たさせていただいたことについて、深く感謝を申し上げる次第でございます。また、私ごとで恐縮でございますが、今期をもちまして県会議員として5期20年間、そして市会議員を4年間ということで、合計24年間の議員活動を終えさせていただくこととなりました。この間、県民の皆さま方をはじめ、多くの方に、お支えをいただきました方々に、心から御礼と感謝を申し上げたいと思います。私からは以上でございますが、この1年間、私を支えていただき、広聴広報会議の座長としてご尽力いただきました、前野副議長からも、一言、感想を述べさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○副議長就任から1年を振り返って

(副議長) それでは私の方からも、副議長に就任をしてからの1年間を振り返って、少し感想を述べさせていただきたいと思います。昨年の5月に副議長に就任をして以来、前田議長を補佐するとともに、広聴広報会議の座長として県議会の情報を広く発信し、県民の皆さまから様々なご意見を聴かせていただく取組を積極的に展開してまいりました。この1年間で最も印象に残っております取組は、2つございます。1つ目は、昨年8月に開催をいたしました「みえ高校生県議会」であります。今回で3回目となる取組でありましたが、高校生からの質問はどれも素晴らしく、我々議員にとっても大いに勉強になりました。参加された高校生の皆さんはもちろんのこと、若者が政治に関心を持ってもらう良い機会であったと考えております。2つ目は、三重県議会フェイスブックページの開設であります。私の副議長就任時の公約でもあり、データ放送に代わる広報手段として開設したものでありますが、こちらも今まで政治に関心が薄かった若年層の関心を掘り起こす手段として、大いに期待をしているところ

であります。今月から本格的な投稿を始めているところでありますので、大きく育ててほしいと願っております。また、三重県議会の出前講座の実施要領に、主権者教育、キャリア教育の視点がないというご指摘等も受けておりました「みえ県議会出前講座」についても、その視点も盛り込み、さらに良いものとさせていただきます。この1年間を振り返って感想は以上であります。最後に、この1年間、三重県議会の副議長として、その役割を果たさせていただいたことについて深く感謝を申し上げたいと思います。また、報道機関の皆さまには、議会の広報についていつもご協力いただきまして、誠にありがとうございました。大変感謝をいたしております。ありがとうございます。今後も県民サービスの向上につながるよう、より一層努力をしてみたいと考えておりますので、引き続き皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。私からは、以上でございます。

(議長) ありがとうございます。発表は以上でございます。

2 質疑応答

○県議会議員選挙の結果について

(質問) まず選挙終わったところですけども、少し自民党が増えて、少し新政みえが減ってと言いつつも、一方でどちらにも大勝ちをさせない三重県らしい民意でもあったのかとは思いますが、そのあたり、選挙の結果についてのご感想等あれば、お願いします。

(議長) はい。改選前とそんなに大きく変わっていないのが今ご指摘いただいた通りだと思っております。緊張したバランスの中で、二元代表制の一翼を担える、話し合いをとことんした中で、合意形成を進めていただければと思いますし、また、執行部と是々非々で緊張感を持って進めていただければと思っておるところでもあります。議会運営につきましては、少数会派もなかなか少なくならないのかな、まだこれから16日に向けた届け出でございますので、見守っていきたいと思っておりますが、議会運営につきましては、今年同様、難しさもあるのかなとも思っております。次期体制の中で円滑な議会運営に心がけていただければと思っておるところであります。

○第三者機関の設置について

(質問) 今、公約の1点目でもあったところなんですけども、合意形成できる議会にしていくには、定数の問題での対立というのがあって、やっぱり話し合いができない状況というのはかなりあったと思うんですけども、結局、前田議長が第三者機関ということをおっしゃったんですけど、それがどういうもの

で何をしたいのかというのも見えないまま終わってしまったような印象を受けるんですけども、もう少し具体的に、じゃあどういうものを作れば対立が越えられると思ってるか、第三者機関についてあらためてちょっと説明いただけますでしょうか。

(議長) 自分が公約でお伝えをさせていただいた内容としましては、議会として33回にわたる特別委員会の中で議論を重ねてきて、県民の皆さま方、有識者の皆さま方のご意見をいただきながら、検討を進めさせていただいてきたんですが、なかなか結論に至ることができなかったということを踏まえた中で、私は第三者機関に全てを委ねるのではなく、第三者機関の中である程度の重みをもっていただいて、これからの人口減少時代の中で公選法上の地域事情があるときのこれからの人口が減少していく中での、南部地域の選挙区定数のあり方というのをやはり今の時点で考えていくべきだと思いますので、当然、基本は、人口比で検討を進めていくというのは基本ではあるんですが、非常にこの人口減少時代の中で、そういった状況を踏まえた中で、第三者機関の方の十分な現時点での議論を進めていただいて、そして答申をいただいた中で、それを重みをもって、議会として最終判断をしていっていただきたいなという思いで、私は今年の議長公約の中で、今年議決できる形ではございませんでしたが、改選後に速やかにそういった議論を進めていただけるように、不断の見直しという思いの中で、今年度に第三者機関を設置しながら、改選後に申し送りができるという思いで、公約に掲げさせていただいたところであります。

(質問) なぜできなかったんですか。

(議長) 会派の方の、代表者会議で議論を進めさせていただいてまいりましたので、その会派の、一部の会派の方のご理解がいただくことができなかったという力不足のところだったと思います。

(質問) たぶん、今度は第三者機関にやや否定的な、自民党のほうが勢力が増えるわけですから、もっと難しくなるんじゃないかと思うんですけども、改選後はできるんですか。

(議長) 改選、具体的な会話は控えまして、代表者会議で議論をさせていただいた時も、今するのではなくて、改選後にすればいいんじゃないかというご意見も確かいただいていたと思いますので、勢力図的な部分は別にしながら、やはり、県民の付託を得られて議員になられたわけでございますので、その改選後にどうあるべきかということを、真摯に議論を深めていただければと思います。

ますし、他の手法があるのであれば、それもお話し合いをいただいた中で、解決できる、見直しができる方法があるのであれば、その手法も検討いただければと思っておるところであります。

(質問)他の手法でもOKということは、もうその第三者機関かどうかも含めて、それも改選後に任せるので、前田さんとしては何も引き継がないということですか。なんら担保できないということですか。何かしら担保はできるんですか。

(議長)いえ、私としては第三者機関を設置して、先ほど申し上げた考え方の中で、検討を速やかに進めていただきたいという議長に引き継ぎはさせていただきます。

○次期の役員改選について

(質問)改選後に議長選があるわけですが、役選が。第一会派が議長で、第二会派が副議長というような慣例があるというふうにおっしゃる方もいるんですけど、三重県議会でも長くそういう議長と副議長で会派が異なる状況が続いてきたと思うんですが、どういう形がふさわしいと思いますか、議長として。

(議長)議会運営を円滑に進めていくというのがやっぱり正副議長の役割でありますし、議会全体を県民の皆さま方のために進めていけるのかというところの視点が大事だと思っております。そのベースの中に今ご指摘いただいた第一会派から議長、第二会派から副議長というのは昔からのそういう話がございますが、必ずそうしなければいけないということはないんですが、昔からの原理原則の中で、議会運営を円滑に進めていくが故のそういうお話だと思っておりますので、基本はそういう形がいいのかなとも思いますが、当然話し合いの中で、立候補していただいて、公約を聞いていただいた中で、各議員が判断をいただくという形が今の三重県議会の議長選、副議長選における手法でありますので、そういったことも踏まえながら、立候補していただいて、思いを語っていただいて、議員の賛同をいただくということが必要なのかなと思っております。

(質問)副議長はそれについていかがですか。

(副議長)そうですね。会派構成については、会派そのものの構成をするときに、政党政治をきちっと整理をした会派が出来上がって、それで第一会派が議長をして、第二会派が副議長をして、という、そういう構成になれば素晴らしい三重県議会の構成になると思うんですが、現実なかなかそのようなことは難

しいような中でですね、第一会派が議長、第二会派が副議長というのは少し今回の流れなんか見ていると、会派の数も多そうでございますので、なかなか難しいのではないかなという感想は持っていますね。

(質問) それはつまり話し合いが上手くいかない可能性もあるというようなことですか。

(副議長) そうですよ。

(質問) 今のちょっと確認なんですけど、この任期はあれですけど、その前の任期って第一会派新政みえだったけど、自民党が議長を持っていたんじゃないんですか。

(議長) 自民党が？

(質問) 第一会派が新政みえで、自民党が議長を持っていたんじゃないですか。今の任期の前の任期。

(議長) 今期4年間は。

(質問) じゃなくて、その前の任期。

(議長) その前のときですか。最終年にそうですね、自民党さんの方で議長をされたという経過ですね。

(質問) だから別に第一会派が議長がずっと続いていた慣例というわけではないですよ。

(議長) だから、それも先ほどもお話したように、議会運営上という部分の中で、過去からの慣習じゃないんですけれども、そういう大きな流れは基本はあるのかなと。ただ、やはり先ほども申し上げたとおり、5名以上の推薦議員があれば立候補もできますし、公約の中で賛同いただければ、議長選の選挙で、県民の皆さま方に選ばれた議員が最終判断をいただくというのが、今の現状のルールであります。

(質問) 正副議長、共に新政みえであったときもありますよね。

(議長) そうですね。今期の2年目ですね。ございましたですね。

(質問) あのかはどのような経緯で新政みえから2人ということだったんですか。それどう捉えていますか、議長として。そのときにどう感じたとか、今、あらためてあの状況を踏まえてどう思うであったりとか。

(議長) 少しイレギュラーな、先ほどご指摘いただいた改選前の動きも踏まえながらというところの中で、議長が2年任期で改選が無かったという年だったと記憶しております。そのときに副議長選だけ実施された中でそういう形が生まれたと記憶しております。

(質問) 新政みえさんが議長2年というのが1年だと議長がリーダーシップを發揮できないという話をして2年にされていて、今、こうやって選挙結果とか前田さんが引退されることをみると、お認めにはならないでしょうけれども、前田さんに議長をやってもらうために舟橋さん1年にしたんじゃないかと当時からそういうふうに議会内で噂をされていまして、それがどうなのか分かりませんが結果的に2年いると言っていたものを1年にしたわけですね。結果的に前田議長がどうのとか言うんじゃないくて、議会の中の会派同士の対立が強くてリーダーシップを發揮できなかったという要因が強いということは理解しますが、結果的に公約された中で1番に言われたことが達成できないし、議長の言うことなら従おうという空気も議会にも無かった状況になったわけですね。議長の任期1年であったということは、これからも1年で続ければいいのか、やはり2年あった方がいいのか、いかがでしょうか。

(議長) 基本は2年間で仕上げていくという今の議会基本条例に基づいた考え方というのは私は賛成をしております。ただ、2年間で議長として何をやりたいのか、2年間かけて公約ですね、2年間かけてこの改革をやりたい、この取り組みをしたい、2年間かけなければならないことがあれば、2年間でやるべきだと思いますし、1年間でやることを掲げてやっていくというのも1つの選択かなと思います。私が確かに選挙区定数の問題の中で第三者機関の設置についてはご理解はいただけなかったんですけども、非常に経過のある中でございまして、力不足のところも当然ございますが、大きな流れの中でかなり厳しい状況の中での挑戦をさせていただいたという思いでございます。

○引退について

(質問) やっぱり引退する前には議長はやりたかったもんですか。

(議長) そういう問題ではなくて、与えられた任期の中で非常に選挙区定数の混沌とした状況の中で、会派でご推挙いただいたという経過の中で、言葉を少し変えるとそういう火中の栗でもやっぱり拾いにいかせていただいたいという思いであります。

(質問) 引退後は何をされる予定なんですか。

(議長) よくそれは今も聞かれるんですけど、とりあえず電力の社員でございますので、今59歳にならせていただきましたので、3月で、1年間60まで、定年まで電力の社員として継続をさせていただく予定であります。

(質問) 何をされるんですか。仕事は。

(議長) まだこれから。7月が異動でございます。1年間ですのでどうなるかわかりませんが、議員を退職後にまた仕事の打ち合わせをさせていただくという予定です。

(質問) 今期限りで勇退というのはいつ決めたんですか。

(議長) 正式には8月21日の記者会見が正式でございます。

(質問) 去年の。

(議長) 去年のですね。

(質問) 思いはいつ頃から。そういう思いは。

(議長) 思いは、後継者が出ていただけないとなかなか自分自身も難しいかなというところもありましたので、後継者に出ていただけるような話し合いも含めながら進めてきたというところです。

(以 上) 11時00分 終了